

# 会 議 録

会 議 名 称	平成24年度 第2回伊達市立図書館運営協力会会議		
開 催 日 時	平成25年2月8日（水） 14時00分～16時00分		
開 催 場 所	伊達市立図書館 2階 視聴覚室		
出 席 委 員	伊達市立図書館運営協力会委員 9名（欠席者1名）		
事 務 局	伊達市教育委員会教育部図書館		
0 公開・非公開の別	公	開	傍 聴 者 無 し

## 【委員会の概要】

開会后、会長挨拶。

会長より「図書館の運営について」というお話をいただく登別市立図書館長の綿貫亨氏の紹介があり、その後講演、質疑に入り、最後に次回会議については、3月に入って調整して連絡との予定が示された。

## 【講演要旨】

演 題

「図書館の運営について」 登別市立図書館長 綿 貫 亨 氏

公募に応じて採用された司書資格を持つ図書館長としてのこれまでの経過は非常に特徴的であり、示量に溢れており、多くの教示を含んでいると云えよう。図書館業務全般に携わり、なかでも専門はレファレンスであるという。図書館は天職であるとまで言い切れるところに凄さを感じた。

図書館は人であると云われているが、大きなテーマに職員はもとより嘱託職員・臨時職員の資質と地位の向上に力を注いでいるところに、他の図書館にはない取組等がみられた。

全国的にも最近の優れていると評価されている図書館の在り様を的確に捉えて、町づくりの観点からの可能性をも視野に入れている。特に「フロアに人がいる」という点にこだわりを持ち、来館者は配架をしている職員に多くを求める。専門職であるという意識・理解が不可欠である。

市民と図書館という関係において、地域の実情に合せたオーダーメイドの図書館としてその必要性を作り出すこと、毎日行きたくなる図書館を目指すためリピーターを増やす努力、旬を感じる企画、土地の事情を見定めるなどの中での市民とのやり取りでいいものになるかが決まってゆく。

図書館の在り方の根幹は選書であり、そのためには資料費の問題もあるが総ての機会を利用し、地域・ボランティアそして職員の力を引き出してゆくことが肝要で図書館は目で見ないと判らないといわれるように多くの市民が図書館との関わりを持ってもらうことが大切である。多くの場面でいろいろな立場の人々が勉強して行くことも併せて必要なことです。

また図書館には福祉施設的な一面もあるように感じる。「サービスをしないことがサービスである」というところもあり貴重な空間として、豊かな時間を過ごして頂ければと願う。

登別市に来て私の図書館像は少し変わったかなと感じると結ばれた。

## 質疑

市民の代表であるから市民としての勉強の必要性。  
資料費の問題について。  
移動図書館について。  
学校図書との連携について。

会長挨拶、閉会。

## 【その他】

次回開催日程について

開催日時～平成25年3月中

場 所～伊達市立図書館 2階 視聴覚室